



がん医療の未来へ

—あなたの力をお貸しくだけさい—

はじめに



藤田医科大学病院では、将来的に患者さんの遺伝子情報から、お一人ひとりに合わせた最適ながんゲノム医療をお届けできることを目標に、「がん遺伝子パネル検査」の臨床研究をスタートします。

がんは、体を作る細胞に異常が起こり、様々な変異が蓄積することで、無秩序な細胞増殖や転移をきたす疾患です。当院が導入する「がん遺伝子パネル検査」は、100種類以上の「がん関連遺伝子」の変異を一度の検査で調べることが可能で、個々の遺伝子変異の情報に合わせた最適な治療の選択に役立つと期待されています。それぞれの患者さんが有する遺伝子の変異を解析することにより、新たな治療や薬剤の開発に役立てることを目的としています。

パンフレットでは「がん遺伝子パネル検査」について、詳しく説明をしています。ご理解を深めていただき、がん医療の未来にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

「がん遺伝子パネル検査」 臨床研究のご参加について

藤田医科大学病院では、「がん遺伝子パネル検査」臨床研究にご協力いただける方を募集しています。

対象

当院でがん手術を実施予定で、検査にご同意いただける方が対象となります。

検体の採取方法

予定している手術時に、検体（細胞）の採取を行います。検査のために、細胞針や採血などを実施するものではありません。

費用

検体の採取、及び、検査に係る費用は生じません。

検査の特徴

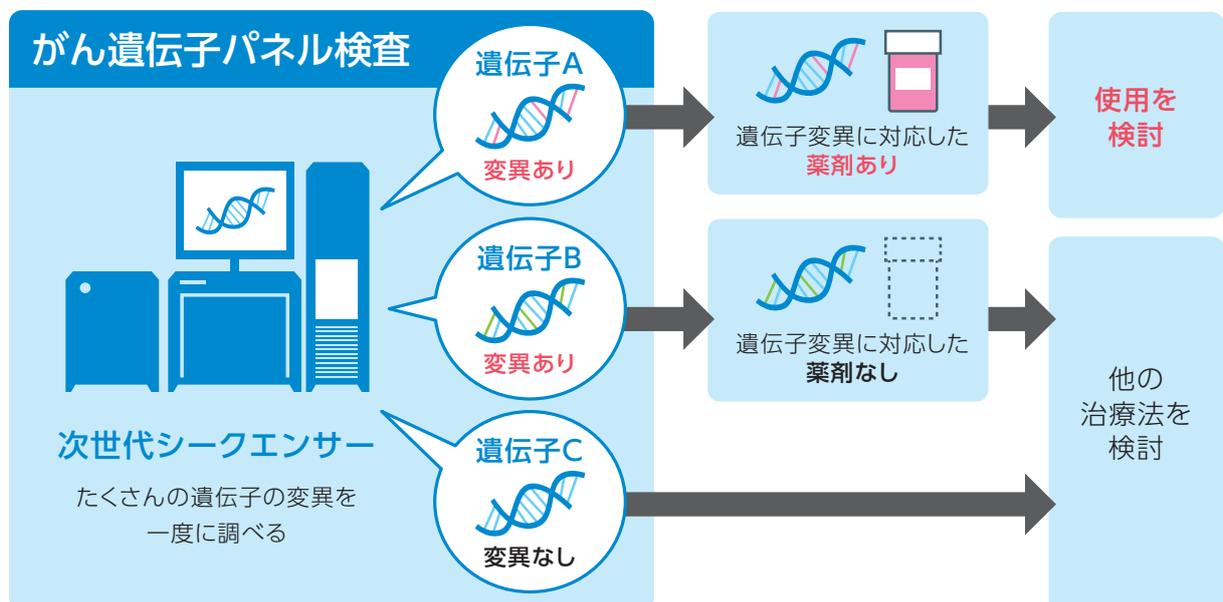
「がん関連遺伝子」を一度に解析

がん遺伝子パネル検査は、がん細胞に起こった遺伝子の変化や特徴を調べる検査です。次世代シーケンサーとよばれる解析装置を使って、がんの原因となる多数の「がん関連遺伝子」の変異を一度に調べることができます。検査の対象となる遺伝子のセットのことをパネルとよび、パネルには通常100種類以上の遺伝子が含まれています。

検査のメリット

一人ひとりに合わせたがん治療につなげます。

がん遺伝子パネル検査には、がん組織のDNAという遺伝子情報から、がんの進展に重要だと考えられている遺伝子変異を見つけることができます。その遺伝子変異をターゲットにした薬があればそれを使用できる可能性が広がります。患者さんの個人レベルで最適な治療方法を分析・選択し、それを施行する医療です。



Q 保険診療との違いはありますか？

A 保険診療でがん遺伝子パネル検査は「標準治療の効果が無い」と分かった段階で行われます。
臨床試験で行う本検査は、「手術時に検体を採取します」。そのため、比較的早期の段階で検査を受けることができます。

そうか!早く分かれば早く治療できる可能性があるわけだ!



Q がん遺伝子パネル検査はどここの医療機関でも受けることが可能ですか？

A がん遺伝子パネル検査は「がんゲノム医療中核拠点病院」や「がんゲノム医療連携病院」などでしか受けられません。「がんゲノム医療中核拠点病院」は専門の人材を育成するなど、がんゲノム医療を提供する基準を満たした病院です。藤田医科大学病院は「がんゲノム医療連携病院」になります。



愛知県にはがんゲノム医療連携病院が14施設あります。
さらに、県内では唯一の「高度型がん診療連携拠点病院」に指定されています。



Q 検査では、遺伝子変異が見つからない場合もありますか？

A 治療選択に役立つ可能性のある遺伝子変異が見つかるのは、全体の約半数になります。
また、遺伝子変異を見つけたとしても、使用できる薬剤がない場合もあります。その患者のがんに合う抗がん剤の使用(臨床試験を含む)に結びつくのは全体の10%程度と考えられています。

逆に考えれば、10人に1人は自分に合う抗がん剤が見つかるんだ!



ただし、このシステムは診療の一環ではなくて「臨床研究」なので、結果を患者側には基本的に開示しない、というルールになっています。今後の治療などに影響する結果が出た場合には例外もあります。藤田ではゲノム医療外来の体制も整っていますので、そこで詳しく説明を聞いていただくこともできますよ。

Q がん遺伝子パネル検査で異常な遺伝子変異が検出されたら、子どもにも検査を受けさせるべきなのでしょうか？

A するどい質問ですね。
がんには、「遺伝するがん」と「遺伝子に関わるが遺伝しないがん」があります。

遺伝子に関わっても遺伝するとは限らないのですね。



例えば、喫煙などの生まれた後の要因によって遺伝子の一部が変異する場合がございます。これを「体細胞性遺伝子変異(somatic mutation)^{※1}」といいます。

※1 生まれた後の後天的要因によって生じる遺伝子変異。原則的に親から子には受け継がれない。

生活環境が遺伝子変異に影響して生じるがんがあるわけですね。



今回行う「がん遺伝子パネル検査」は**体細胞性遺伝子変異を検出するための検査**です。ですから、原則的に検査結果がお子様たちに影響することはありません。

それなら、私の結果をみて子どもたちに余計な心配を
かけないですむということですね。



ただし、がん遺伝子パネル検査によって、ご家族(血縁者)のがんのなりやすさに関わる「遺伝性腫瘍」の情報が見つかる場合もあります。

生殖細胞系列変異^{※2}(germline mutation)という遺伝子変異ですが、こちらはお子様たちに遺伝するタイプです。普段はこちらから説明することはありませんが、特殊な場合もあるので、その際には「遺伝カウンセリング^{※3}」を受けることをお勧めしています。

※2 生まれつき持っている遺伝子配列。親から子に受け継がれる。

※3 遺伝疾患の発症や発症のリスクの医学的影響、心理学的影響および家族への影響を理解し、それに適応していくことを助けるシステム





FUJITA HEALTH UNIVERSITY HOSPITAL

がん遺伝子パネル検査に関するお問い合わせ

藤田医科大学病院 がんセンター

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

TEL:0562-93-9789(直通) FAX:0562-93-9789(直通)
月曜日～金曜日/8:45-17:00